NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成29年(2017)4月10日
No.112
発行　高津啓洋

洪水を乗り越えて

パラグアイから一時帰国中の伊達勝見・現地事務局長にインタビューしました。

Q：現地での担当業務はどんな仕事ですか？

A：今日まで各地の植樹活動を支えてきましたが、3年前の大洪水でレダは多くの被害を受けました。今では、木の植え替えや整理もされて、当時の被害はわからなくなってきました。植樹の担当ですが、多くの仕事を兼任しました。何でも一応やらないといけないので、発電機の操作から、週刊レポートの作成、農場の野菜や果物の収穫なども行いました。その中でも、日本の支援者からトラックをいただけたことで、仕事を飛躍的に拡大することが出来ました。

Q：最も苦心したことは？　A：夏場は40℃以上の暑さに、自分の体力を維持しながら、やるべき事柄をいかに効果的に行うかということ。農場や植樹園の除草、肥料作り、剪定、潅水などです。

Q：最新のレダは？　A：一昨年ぐらいから大きく注目されるようになりました。パラグアイは世界的にも木の伐採が激しく、保護されてきませんでした。国連からもその点への指摘がされています。米国の青年リーダーの研修に用いられ、環境保護活動の教育の場として貴重な存在になっています。また米国の牧師たちの来訪、在パ日系人の訪問と国際交流の場としても大切になってきています。

Q：日本でしたい事は　？　A：今までの歩みの整理と記録のデーターの作成。必要事項の学習、多くの人々にレダの紹介をしたいです。

Q：将来の抱負は？　A：より計画的で、効果的な植樹活動をレダで行いたいです。またレダの情報提供も充実させたいです。そしてレダに人々が定住できる快適な環境作りに少しでも貢献できればと思っています。

Q：日本の皆様に一言　A：パラグアイの青年組織と共同で植樹活動を全国的に展開しています。その時に、多くの人材を必要としていますので、特技のあるなしを問わず、短期や長期どちらでも積極的に訪問してください。また、山の中での植樹の現場では、総合力が必要で電気や機械技師なども待ってます。

満開の桜の下でセミナー

4月8日、国立オリンピック青少年総合センターで満開の桜の元、一日セミナーが行われました。南北米福地開発協会と共催で、高津啓洋理事長が、地球環境問題と植樹活動をテーマに、講義とフィールドワークの講義が行われ、80名ほどの人が参加しました。

湘南支部や船橋支部の活動紹介に関心をもって、エコツアーや植樹活動に参加したいと、午後の分科会にも積極的に会の活動に参加したいと話していました。

［お知らせ］　8月21日から9月9日、青年ボランティア、パラグアイ植樹活動の募集を5月末まで行っています。